

福島第一原子力発電所の状況

2015年7月28日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (7/28 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.9 m ³ /h	27.1 °C	0.9 kPa g	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.4 m ³ /h	33.2 °C	5.32 kPa g	A系： 0.01 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.01 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.3 m ³ /h	30.5 °C	0.20 kPa g	A系： 0.04 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05 vol%

<2. 使用済燃料プール(SFP)の状況> (7/28 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	31.0 °C
2号機	循環冷却システム	停止中	29.7 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	27.5 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	26.3 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘドراجジンの注入を適宜実施。

【2号機】・7/28 6:02 空気作動弁用コンプレッサの交換に伴う準備作業(コンプレッサユニットおよび防護柵のアンカー打設作業)を行うため、SFP代替冷却系を停止。冷却停止時のSFP水温度は 29.4°C。停止は 7/31 までの予定で、冷却系停止時のSFP水の温度上昇率は 0.136°C/h、温度上昇は最大で約 11.4°Cと評価しており、運転上の制限値 65°Cに対して余裕があることから、SFP水温度の管理上は問題ない。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
3号機	タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	7/24 6:25 ~ 7/24 22:10 移送実施

【3号機】・6/18 の移送作業時に確認した廃棄物地下貯蔵建屋(FSTR建屋)の廃スラッジ貯蔵タンク(A)の変形について、原因調査の結果、FSTR建屋の滞留水水位がタンク内水位よりも最大で約 3,000mm 高い位置にある時期が確認されたことから、滞留水の水压により、タンクに変形が生じたものと推定。FSTR建屋から廃棄物処理建屋への滞留水移送については、水質による影響がないことから 7/29 より計画的(断続的)に実施する。なお、当該タンク内包水については、滞留水の水位を低下させた後、異常が確認されていないタンクへ移送する。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (7/28 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<5. その他>

- ・2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
- ・2015/4/30 12:00～ ブライン(不凍液)循環設備の健全性や地下水の流れによる影響等の確認のため1～4号機建屋の山側(18箇所)を対象に試験凍結を開始。
- ・2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽(フランジ型タンク)の解体作業を開始。

・7/27 17:54 頃 構内で汚染水タンク雨水抑制対策工事に従事していた協力企業作業員(男性)が体調不良を訴え、入域管理棟救急医療室に入室し、医師の診察を受けた。診察の結果、緊急搬送の必要があると診断されたため、同日 18:43 に救急車にて発電所を出発し、南相馬市立病院に搬送。当該作業員に意識はあり、身体に放射性物質の付着はない。

7/28 熱中症Ⅱ度(熱疲労)と診断。なお、頭部CTで異常がなく、輸液投与し、同日退院。

・7/28 8:25 頃 6,900V電源盤(M/C2B)の地絡警報が発生したことを確認。また、5号機中央制御室において6,900V電源盤(M/C5F)の地絡警報が発生したことを確認。状況を確認したところ、運転中であった窒素ガス分離装置(B)の停止および陸側遮水壁用のすべての冷凍機の停止を確認。窒素ガス分離装置はA系が運転しており、窒素供給には問題がない。また、1～3号機原子炉注水設備、1～3号機燃料プール冷却設備、共用プール冷却設備、モニタリングポスト、構内ダスト放射線モニタに異常がないことを現場にて確認。

8:34 頃 多核種除去設備建屋西側において、電源ケーブルが収納されているエフレックス管より白い煙があがっていることを発見したと協力企業作業員より連絡を受け、8:40 に双葉消防本部へ連絡。その後、8:42 に白煙の発生が止まっていることを確認。双葉消防本部による現場確認の結果、エフレックス管の火災であると判断。また、9:30 に同消防本部により鎮火を確認。

当該管には6,900V電源盤(M/C2B)の負荷ケーブルが収納されていたことから、ケーブルに地絡が発生したことが原因で、ケーブルと接続している電源盤に地絡警報が発生したと判断。

火災発生時刻に白煙が確認された箇所付近で防草シートの敷設作業を行っていたことから、現在当該作業との関連を調査中。なお、地絡警報は現在すべてクリアしている。また、けが人は発生していない。

12:16 異常がないことを確認したことから、窒素ガス分離装置(B)を起動。12:34 に窒素ガスの供給を開始。

14:05 陸側遮水壁用の冷凍機について、システムの運転を開始。

【1号機原子炉建屋カバー解体作業】

・2015/3/16 1号機の原子炉建屋カバー(以下、建屋カバー)解体工事に向けて準備工事を開始。

5/15 6:45～5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタおよびモニタリングポストのダスト濃度等に有意な変動なし。

7/17 7:06～2015/7/21 9:10 建屋カバー屋根パネル貫通孔からの飛散防止剤の散布作業が終了。

7/28～ 建屋カバー屋根パネルの取り外し作業を開始。

【海水配管トレンチ立坑閉塞充填作業状況】

【2号機】・2015/2/24 海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業開始。

6/30 海水配管トレンチ内の滞留水 約 4,500m³の除去完了。

7/10 海水配管トレンチ内の充填完了。

【3号機】・2015/5/2～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を実施中。

6/12～ 当該作業に伴う海水配管トレンチ内の滞留水については、塩分濃度等を考慮しつつタービン建屋へ排水しているが、タービン建屋滞留水の塩分濃度が上昇した場合、汚染水処理に影響を及ぼすことが考えられるため、一時貯留先として1号機復水貯蔵タンク(以下、「1号機CST」という。)へ滞留水の受け入れを行う。その事前準備として、受け入れ可能な容量を確保する目的で、1号機CSTに貯留されている汚染水を1号機廃棄物処理建屋へ移送を行う。

7/29 立坑Bから3号機タービン建屋への移送を実施し、トレンチ内滞留水除去が完了予定。

【4号機】・2015/4/15～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、開口部への閉塞材料の充填作業を実施中。

【地下水バイパス揚水井の状況】

・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。

【1～3号機放水路の状況】

※1～3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム 137 の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

<最新のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【構内側溝に敷設されている耐圧ホースからの漏えいについて】

<K排水路排水口のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。引き続き、監視を継続していく。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上